

# 少人数教育の充実に向けた取組

【県南教育事務所】

|        |           |
|--------|-----------|
| 学 校 名  | 棚倉町立高野小学校 |
| 学年・教科等 | 第5学年・算数   |

## キャリア教育の視点に立った、学習内容の習熟の程度に応じた指導の工夫

### 1 少人数指導の計画等

本校では、キャリア教育の視点から授業を見直し、各教科等における指導法の工夫と改善をすることを通して「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」のキャリア能力を兼ね備えた学力の向上に取り組んでいる。今年度は、加配教員が配置されたことを生かし、次の2点に焦点を当てて取り組んでいる。

- (1) 学級を習熟度により複数に分け、自ら学び方や課題を選択できるようにする。また、一人一人の児童に確かな学力を身に付けさせるように、つながり感のある指導体制を整える。
- (2) 学級の実態や指導の場に応じてT<sub>1</sub>、T<sub>2</sub>の役割を明確にし、4つのキャリア能力向上を意識した指導を工夫することを通して、習熟度別・少人数指導が効果的に実施できるようにする。

### 2 実践の概要

第5学年 算数「整数の性質」

単元に入る前のレディネステストや教師の説明により「じっくりコース」と「発展コース」の2つのコースを児童に提示し、見通しをもたせ、学び方や学ぶスピードが異なるコースから自分のコースを決定させた。(キャリアプランニング能力、自己理解・自己管理能力の育成)

じっくりコースでは、半具体物を用いて6と8の公倍数を見つける自力解決の時間を多く取った。操作活動を通して個々の思考の時間を充実させたことで、理解を深めさせることができた。(課題対応能力の育成)

発展コースでは、児童が多様な考えを出し合い、自分の考えと比較し、集団で思考する時間を十分に取った。その中で6と8の最小公倍数が答えになることを、根拠をもとにして説明させることを通して、活用力を高めることができた。(人間関係形成・社会形成能力の育成)



【半具体物を使った自力解決】



【集団での思考】

### 3 実践の成果と課題

- 4つのキャリア能力の視点で授業を見直し、指導を改善したことで、教師の指導力向上が図られた。
- 児童の特性と習熟の程度に応じた指導の工夫をしたことで、児童が自信をもって自分の考えを書いたり発言したりする姿が見られ、主体的に学んでいた。
- 友だち同士が関わり合って学ぶことで、学びの質が高まるとともに、算数の時間を好む児童が増えてきた。
- 担任と加配教員が連携を密にし、深い教材研究のもとに単元構想や授業の進め方について話し合う時間を設定し、授業づくりを充実させていくことが大切である。